

2025 年 12 月 28 日年末礼拝

『必要なことは一つだけ』

ルカ 10:38~42

## 聖書箇所

38 さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人がイエスを家に迎え入れた。

39 彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主のことばに聞き入っていた。

40 ところが、マルタはいろいろなもてなしのために心が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」

41 主は答えられた。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。

42 しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」

## 導入

本日は年末礼拝です。色々あった 2025 年も遂に今週で終わってしまいますね。今年 1 年を振り返ると皆さんはどのような思いが上ってくるでしょうか。きっとこの 1 年皆さんに神様からの祝福が豊かにあったことと思います。

さて、12 月ですけども、12 月は別の呼び方で師走といいますよね。この言葉はもともと 12 月のお坊さんの様子が由来だったそうで、普段はゆっくり歩いている様なお坊さんもこの時期は忙しく走り回っている姿から作られた言葉なのです。年末に忙しいのはお坊さんだけではなく、誰でも忙しくしているので、なるほどなぁと覚えやすいですね。そう。私たちの生活の中で 12 月は特に忙しい時期と言えるでしょう。1 年を振り返ったり、新しい年の準備だったり、心も体も忙しい時期ではないかと思うのです。

先ほどお読みした聖書の中にも忙しい方が出てきました。マルタです。イエス様を迎えたはいいものの、忙しさを覚えている彼女の姿は、まるで忙しい中にある私たちは陥りやすい姿ではないかと思うのです。そこで、年末礼拝の今日は忙しさの中にある者にイエス様が語りかけてくださる言葉に耳を傾けたいと思います。

## 本文Ⅰ：マルタの課題

38 さて、一行が進んで行くうちに、イエスはある村に入られた。すると、マルタという女の人がイエスを家に迎え入れた。

この箇所にはマルタとマリアの姉妹が登場します。マルタの方が姉であったとされています。マルタという言葉には女主人という意味がありまして、彼女はその家の主人として、心からイエス様を迎えることができたのでしょう。ただ、この聖書箇所はどうやら時系列では記録されていないらしいのです。前に記されている永遠のいのちを得る方法を受け継ぐ形としてルカはマルタとイエス様の話を記録しているのです。イエス様による永遠のいのちを得る者へのメッセージとしてこの箇所は用いられているのではないのでしょうか。

そんなマルタですが、彼女はイエス様を迎えました。このことから彼女がイエス様を信じていたことを知ることができます。一行とありますが、一体何人になったのでしょうか。イエス様の旅には弟子たちが共にいました。しかし、それだけではとどまりません。イエス様の旅をサポートする人々もいたのです。この時にサポートしてくださっている人々がいたのかは定かではありませんが、もし、いたとするならば、この一行はかなりの数になったことでしょう。そんな人たちを家に招いたのですから、彼女がイエス様を慕っているということは疑いようがありません。

さて、たくさんの人を迎え入れるには準備が必要となります。食事はもちろん人数分必要です。広いスペースも必要です。急いで掃除をしなくてはなりません。飲み物はどうしましょう。さらに、この時代は客人のために足を洗う水を準備するというのがマナーでしたから、その水の準備やタオルも人数分必要です。イエス様を家に向けるのは楽しい。しかし、準備することがとてもたくさんある。これがマルタの状態だったのです。

### 39 彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主のことばに聞き入っていた。

そんなマルタを尻目にマリアはイエス様の足もとに座って、イエス様の話に聞き入っていました。マルタの忙しさには興味もないようです。わざと大きな音を出してみます。それでもマリアは動きません。今度はああ、忙しい忙しい!と声に出してみましょうか。それでもマリアはイエス様の声に耳を傾けているのです。マルタはついにイエス様に訴えるという行動に出るのです。

彼女の状態を考えてみましょう。マルタは忙しさの中にいました。その忙しさは彼女にとってとても大事なことであるように思えるものです。あのイエス様とその一行をもてなすのですから、誠心誠意もてなしをしようとするのは素晴らしいことのように思えます。しかし、イソカシさの中で彼女の課題が浮き彫りになるのです。何ともお思いにならないのですか。この言葉にマルタの課題を見ることができるのです。その課題とは『不満』ですね。イエス様を迎え入れることができた。しかし、彼女の中には満足や平安ではなく不満があったのです。

## 本文2:不満の対象

40 ところが、マルタはいろいろなもてなしのために心が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」

マルタの言葉から不満の対象を見ることができます。まずは妹のマリアです。私の姉妹が私だけにもてなしをさせている。マルタは忙しさの原因を妹が手伝ってくれないことであると思っている様です。不思議です。なぜマリアに直接言わなかったのでしょうか。自分が忙しく準備することが正しいのなら、自分の姉妹に直接言えばいいのです。しかし、彼女はそうしませんでした。イエス様によってマリアが気づくことを望んでいるのです。彼女の中にどのような思いがあったのかは定かではありませんが、妹に対する愛を感じることは難しい行動をとっているのは確かです。イエス様を妹と共に迎える栄誉の中にあるにも関わらず、彼女が妹にむけているのは愛ではなく、不満なのです。

次にイエス様です。何ともお思いにならないのですか。この言葉に含まれている彼女の気持ちを想像してみましょう。イエス様を迎えているために妹のマリアは何も手伝ってくれない。それどころかイエス様はそんな妹に対してしかりもしない。私の頑張りは何だったのだろうか？イエス様のためにしているはずなのに、イエス様は何もわかってくれないのだろうか。何で妹を叱ってくださらないんだろう。何で私が頑張っていることをわかってくださらないんだろう。こんなのあんまりじゃないか。きっと彼女の中にこのような思いがあったのでしょうか。わかってくださるはずのイエス様がなんでわかってくれないんだろう。イエス様のために頑張っているのに。そんな不満があったのです。その不満はイエス様を迎えることが喜びではなく、苛立ちに変えてしまったことでしょう。

最後は現状です。私の手伝いをするように、おっしゃってください。彼女は一生懸命働きました。しかし、中々現状は変わりません。自分が正しいと思うことに、イエス様のための働きに全力で挑んでいるのに、結果はついてきていません。いくら働いても結果は変わらない。誰も認めてくれない。こんなにも一生懸命なのに。イエス様も妹も私を助けてくれない。一体なんでこんなことになっているんだ。現状を見る時、彼女の不満は苛立ちとなって現れてしまったのでしょうか。

みなさんはこのマルタの不満をお聞きになってどのように受け止められたでしょうか。私たちの歩みの中においてもマルタのような不満はよく起こります。私たちはなぜ礼拝をするのでしょうか。私たちはなぜ賛美をするのでしょうか。私たちはなぜ祈りをささげるのでしょうか。主を慕うからです。主が私たちに語りかけてくださっているからです。主のこばを聞きたいと願っているからです。だから、礼拝し、祈り、賛美し、仲間と分かち合い、笑い合ひます。しかし、忙しさの中にいる時に、私たちはその喜びを、主が共におられることの喜びを忘れがちではないかと思うのです。イエス様を迎えることの素晴らしさを味わっているはずなのに、喜びを感じられない。いつの間にかそんな中にいる自分に気付かされることがあります。

先日私たちはクリスマスをお過ごししました。クリスマス礼拝、キャンドルサービス、クリスマス会などなど、私たちの間に來てくださったイエス様の誕生を共に喜び、その喜びの知らせを共に味わう時間を過ごすことができました。私はクリスマスのたびに思い出す言葉があるのですが、それがクリスマス疲れというものです。神学生の時代に教授から聞いた言葉なのですが、教会の中でクリスマス疲れというものが出していないか、注意をしなくてはならないということを教えられたことがあります。教会はイエス・キリストを喜びます。そのためにクリスマスのは気合いが入るのは当然と言えるでしょう。たくさんの会が持たれます。たくさんの準備をします。礼拝はいつも特別ですが、その中でも特に特別な礼拝を守ります。忙しさが増すのです。それは素晴らしいこ

とです。クリスマス、イエス様の誕生を心から喜ぼうという思いが溢れているのですから。しかし、いつの間にか、その忙しさの中であって、本質を見失いがちになってしまいます。だから、疲弊してしまうのです。これがクリスマス疲れと呼ばれる者であり、知らず知らずの内に、多くの教会や牧師の間で怒ってしまうことだと言います。

忙しいことは素晴らしいことです。信仰のための忙しさならなおのことですね。決して忙しいことが悪いことではありません。ですが、忙しさの中にある時は心が落ち着かないことが多々あることでしょう。その内、忙しく動き回る理由を忘れます。つまりイエス様を迎えるということなのです。

マルタの課題、不満は最も大切なことを見失っていたことに原因があります。イエス様をお迎えする。そして、準備をする。そのどれもが大切なことでしょう。しかし、なぜ、イエス様を迎えるのでしょうか。なぜ、イエス様をもてなしたいとの思いを持つのでしょうか。それは、イエス様と共にいたいからです。イエス様の声に耳を傾けたいからです。イエス様の姿を見たいからです。イエス様が私の隣にいて望んでいるからです。マナーを守る。おいしい食事をする。大事なことです。しかし、最も大切なことは主と共に歩むということです。主が私に何を語ってくださることがなんであるのかを求めることです。

### 本文3:不満の中にいる者へ

**41 主は答えられた。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。」**

**42 しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」**

忙しさの中にいるマルタにイエス様は何を語ってくださるのでしょうか。この箇所のイエス様の言葉は優しさに満ちている様に思えます。というのは、イエス様はマリアが忙しさの中にいることも、彼女の課題や不満も全部受け止めてくださっているからです。あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。彼女の状態、思いの全てを知ってくださっているのです。その上でイエス様は語りかけます。必要なことは一つだけです、と。その一つをイエス様は定義されておられません。しかし、マリアが選んだものこそ必要なものだといいます。

**39 彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主のことばに聞き入っていた。**

マリアが選んだもの。一つだけの必要なもの。それは主の足もとで、主のことばに聞き入ることです。イエス様を迎えた者が必要なことは主の御声に耳を傾け、そのみことばに聞き入り、集中することに他なりません。豪華な食事でも、身だしなみを整える水でも、快適に過ごしていただくためのどんな準備も必要なことには含まれないのです。イエス様を迎える者にたった一つ必要なこと。主の近くで、主から決して離れない距離で、主のことばに聞き入ることになります。

サークル・メーカーという本の著者で有名なマーク・バターソン牧師は、神のささやきという本で、主の語り

かけについてこのように記しています。

“ 神のささやきほどに、あなたの人生を変える可能性を秘めたものはない。神の静かな小さな声を聞く能力ほど、あなたの人生を左右するものはない。

これによってあなたは、神が良しとされることと、喜ばれること、そしてその完全な御心を見極めることができる。そして、それによってあなたは、神に与えられた使命を知り、理解することができるのだ。”

主はささやかれます。私のすぐそばで、私だけがきくことのできる声でささやかれるのです。集中しなければ聞くことはできません。他の何物に心を奪われてしまつては、主が共におられることを感じることはできないのです。また、主が語られることよりも、私自身の言葉を語るのに忙しかつたら、主のささやきは消されてしまうでしょう。共におられても、主に集中することができず、心が煩っているのなら、主が共におられる喜びを味わうことはできないのです。共におられる主のささやきに耳を傾けることが私たちには必要なのです。

私たちの救い主の名前はインマヌエルと呼ばれます。その意味は神が私たちと共におられるというものです。なぜ救い主の名前が私たちに神が共におられることを思い起こさせるものになっているのでしょうか。それは、主が共にいることを私たちが忘れてはならないからです。主は私たちと共におられ、私たちを助ける方です。どうしようもない現実には常に私たちの前にあります。忙しさは私たちに迫ってきます。私たちは忘れてはいないでしょうか。何を持って忙しくしているのか。私と共におられる方がどなたであるのか。

主は語りかけてくださいます。必要なものは一つだけです。主の御声に耳を傾けることです。年末のこの時期、私たちの心の中にマルタのような思いがあるでしょうか。思い煩いがあるでしょうか。忙しさの中で主を忘れてはいないでしょうか。主のことばに耳を傾けることを疎かにしてはいないでしょうか。主を覚えませんか。主が私に語りかけてくださっていることを覚えようではありませんか。私たちに必要なものは、主を愛すると告白する者に必要なものは一つだけ、主の御声なのです。

## 結論

2025 年が終わろうとしています。今年の初めに確認したテーマ聖句を今一度読んでみましょう。**詩篇 1:1 ~4**

- 1      幸いなことよ  
         悪しき者のはかりごとに歩まず  
         罪人の道に立たず  
         嘲る者の座に着かない人。
- 2      主のおしえを喜びとし  
         昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。
- 3      その人は

流れのほとりに植えられた木。

時が来ると実を結び

その葉は枯れず

そのなすことはすべて栄える。

4 悪しき者は そうではない。

まさしく 風が吹き飛ばす秕殻だ。

私たち土浦めぐみ教会の 2025 年はこのみことばから始まりました。主のおしえが私たちにあることを望んで私たちはこの 1 年をスタートさせたのです。その 1 年が終わろうとしています。今までも、今も、そして、これからも、主の足もとで、主のことばに聞き入る私たちでありたいと願います。イエス様の教えてくださったたった一つの必要なものを決して忘れない私たちでありたいと願います。